

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-242940  
(43)Date of publication of application : 24.09.1996

(51)Int.Cl.

A45D 40/00

(21)Application number : 07-074548  
(22)Date of filing : 07.03.1995

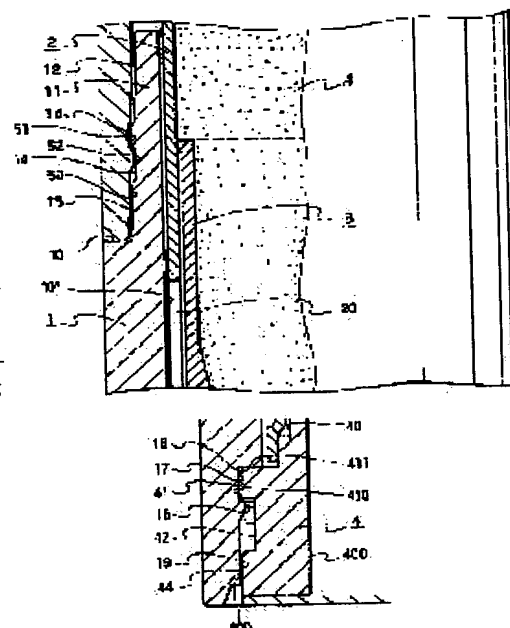
(71)Applicant : WADA KOGYO KK  
(72)Inventor : WADA SATOKO

## (54) ROD-SHAPED COSMETIC FEEDING VESSEL

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To provide a rod-shaped cosmetics feeding vessel of a simple structure and having airtightness by putting a slope on the inner surface of a cap and a ring-shaped bulge ridge in tight contact with a guide slope on the external surface of a skirt, a ring-shaped ridge, and a sealing surface, and putting a detaining ridge on the internal circumferential surface of the bottom of the skirt and the sealing surface and an overhung sealing surface in tight contact with a ring-shaped ridge and a groove in the bottom lid equipped with a hole.

**CONSTITUTION:** A slope 12 and a ring-shaped ridge 13 are provided on the peripheral surface of a cylindrical part 11 of a skirt 1, and below it, a sealing surface 14 is formed, and at its foremost, a guide surface 15 is furnished. A slope 50 to be loosely fitted to the guide surface 15 is furnished on the inner surface of a cap, and at its termination, a ring-shaped bulged ridge 52 is formed which strides over the ridge 13 to come into tight contact with the sealing surface 14. A ring-shaped recess 51 is provided having a depth to generate a loose fit on the ridge 13 from the upper root of the bulged ridge 52. A ring-shaped ridge 41 provided on a holed bottom lid 4 equipped with a hole strides a detaining ridge 16, and the external surface 410 comes into tight contact with a sealing surface 17 on the skirt 1 while the upper surface 411 is seated on an overhung sealing surface 18. Accordingly, a seal is formed by the cap and the holed bottom lid 4.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.11.1997  
[Date of sending the examiner's decision of rejection]  
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]  
[Date of final disposal for application]  
[Patent number] 2932156  
[Date of registration] 28.05.1999  
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]  
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]  
[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-242940

(43)公開日 平成8年(1996)9月24日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 4 5 D 40/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 5 D 40/00

技術表示箇所

U

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平7-74548

(22)出願日 平成7年(1995)3月7日

(71)出願人 000252528

和田工業株式会社

東京都墨田区本所3丁目21番10号

(72)発明者 和田 里子

東京都墨田区本所3丁目21番10号 和田工業株式会社内

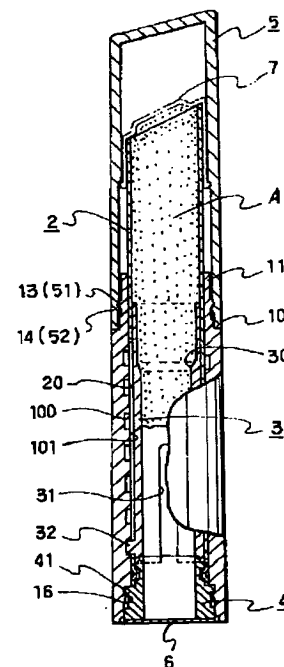
(74)代理人 弁理士 黒田 泰弘

(54)【発明の名称】 棒状化粧品繰出し容器

(57)【要約】

【目的】部品数増加なしの簡単な構造により適切な気密性を実現できる棒状化粧品繰出し容器を提供する。

【構成】筒体1の円筒部11の外周所定位置になだらかな曲率のリング状突条13とこれ麓から緩勾配のシール用面14が形成され、キャップ5の内面には前記リング状突条13を乗り越えたのち前記シール用面14に密接される山状の環状隆起突条52と該環状隆起突条52に連続して前記リング状突条13に遊合されるリング状凹入面51とが形成されている。また筒体1の下部には係止用突条16までの径よりも小さな径のシール用面17とこれと直交する張出しシール面18を設け、有孔底蓋4には前記係止用突条16を乗り越えたのち前記シール用面17と張出しシール面18に密接可能な上面411と外周面410を備えた環状突条41を設けた。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】上部域に段部 10 を介して円筒部 11 を設け、内周にはめねじ溝 100 を形成した袴体 1 と、前記袴体 1 に貫入れる外径と袴体 1 よりも大きな長さ寸法を有し、下端部近く内方に突出する環状係止部 21 を形成し、該環状係止部 21 よりも上方にガイド用縦溝 20 を形成した金属製の中筒 2 と、前記中筒 2 に摺動可能に内嵌され、上半部に棒状化粧料 A に対する嵌合部 30 を有し、下端から所要位置まで 180 度対称位置に可縮用スリット 31、31 を形成しかつ下端部外周に前記中筒 2 のガイド用縦溝 20 から突出して前記めねじ溝 100 に進入可能な突起 32 を設けた中皿 3 と、前記袴体 1 の下端部に嵌着され、上側部には前記環状係止部 21 と嵌合する係合溝 40 を有する有孔底蓋 4 と、前記袴体 1 の円筒部 11 に挿脱可能に嵌まるキャップ 5 とを備え、袴体 1 の円筒部 11 の外面には先端から所定位置まで誘導用勾配面 12 が形成されると共に、所定位置にはなだらかな曲率のリング状突条 13 が形成され、さらにこのリング状突条 13 の麓から緩勾配のシール用面 14 が形成されており、キャップ 5 の内面は先端から所要位置まで円筒部 11 の付け根領域に遊嵌する勾配面 50 を有し、この勾配面 50 の終端位置には、前記リング状突条 13 を乗り越えたのち前記シール用面 14 に密接される山状の環状隆起突条 52 と該環状隆起突条 52 に連続して前記リング状突条 13 に遊合されるリング状凹入面 51 とが形成されており、前記袴体 1 の下端から所定位置の内周面には係止用突条 16 を設けると共に、この突条 16 よりも奥には袴体 1 の下端から係止用突条 16 までの径よりも小さな径のシール用面 17 とこれと直交する張出しシール面 18 を設け、有孔底蓋 4 には係合溝 40 よりも下方に前記係止用突条 16 を乗り越えたのち前記シール用面 17 と張出しシール面 18 に密接可能な上面 411 と外面 410 を備えた環状突条 41 と、該環状突条 41 に続く凹溝 42 を設けたことを特徴とする棒状化粧品繰出し容器。

【請求項 2】少なくとも前記袴体 1 とキャップ 5 がロックウェル硬度 R90～R110 の合成樹脂からなっている請求項 1 に記載の棒状化粧品繰出し容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は口紅で代表される棒状化粧品の繰出し容器に関する。

## 【0002】

【従来の技術】口紅やアイシャドウなどの棒状固形化粧品は揮発成分を含有したものが多く、従来のこの種の容器は気密性が乏しいため揮発成分が消失して乾燥した

り、収縮してひび割れを起し、適切な使用を行えないという問題があった。この対策として実開平 1-118713 号公報などにおいては、袴体の上縁部位にキャップの下端縁内側と接するゴムなどからなるリング状弾性部材を取付けることが提案されている。しかしこの先行技術はリング状弾性部材という特別な部品を使用しこれを容器組立て時に嵌着しなければならないためコストが高くなり、また使用時にゴミなどが付着するとそれがリング状弾性部材に喰込み、リング状弾性部材を損傷したり、気密性が極度に低下しやすいという問題があった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は前記のような問題点を解消するために発明されたもので、その目的とするところは、部品数増加なしの簡単な構造により適切な気密性を実現できる棒状化粧品繰出し容器を提供することにある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明は、上部域に段部を介して円筒部を設け、内周にはめねじ溝を形成した袴体と、前記袴体 1 に貫入れる外径と袴体よりも大きな長さ寸法を有し、下端部近く内方に突出する環状係止部を形成し、該環状係止部よりも上方にガイド用縦溝を形成した金属製の中筒と、前記中筒に摺動可能に内嵌され、上半部に棒状化粧料に対する嵌合部を有し、下端から所要位置まで 180 度対称位置に可縮用スリットを形成しかつ下端部外周に前記中筒のガイド用縦溝から突出して前記めねじ溝に進入可能な突起を設けた中皿と、前記袴体 1 の下端部に嵌着され、上側部には前記環状係止部と嵌合する係合溝を有する有孔底蓋と、前記袴体の円筒部に挿脱可能に嵌まるキャップとを備えており、この構造において次の構成を採用したものである。袴体の円筒部の外面には先端から所定位置まで誘導用勾配面が形成されると共に、所定位置にはなだらかな曲率のリング状突条が形成され、さらにこのリング状突条の麓から緩勾配のシール用面が形成されており、キャップの内面は先端から所要位置まで円筒部の付け根領域に遊嵌する勾配面を有し、この勾配面の終端位置には、前記リング状突条を乗り越えたのち前記シール用面に密接される山状の環状隆起突条と、該環状隆起突条に連続して前記リング状突条に遊合されるリング状凹入面とが形成されており、前記袴体の下端から所定位置の内周面には、係止用突条を設けると共に、この係止用突条よりも奥には袴体の下端から係止用突条までの径よりも小さな径のシール用面とこれと直交する張出しシール面を設け、有孔底蓋には係合溝よりも下方に前記係止用突条を乗り越えたのち前記シール用面と張出しシール面に密接可能な上面と外面を備えた環状突条と、該環状突条に続く凹溝を設けている。好ましくは、少なくとも前記袴体 1 とキャップ 5、さらにはこれらと有孔底蓋 4 はロックウェル硬度 R90～110 の軟質合成樹脂からなっ

ている。

#### 【0005】

【作用】本発明においては、有孔底蓋 4 と袴体 1 は、ロックウェル硬さで R90～110 の軟質な上面 411 と張出しシール用面 18、外面 410 とシール用面 17 の緊密な面接触により完全に気密シール状態となる。また、キャップ 5 を袴体 1 に取付ければ、リング状凹入部 51 はリング状突条 13 と遊合し、ロックウェル硬さで 100～105 の軟質な環状隆起突条 52 と緩勾配のシール用面 14 だけが完全に面接触する。このためキャップ 5 と袴体 1 も完全に気密シールされる。したがって、これらにより弾性シール材を何ら使用しなくても化粧料の揮発分の蒸発を確実に防止することができ、長期に渡って良好な品質を維持することが出来る。

#### 【0006】

【実施例】以下本発明の実施例を添付図面に基いて説明する。図 1 と図 2 は本発明による棒状化粧品繰出し容器の一実施例を示しており、図 3 ないし図 5 はその一部を拡大して示している。1 袴体、2 は袴体 1 に貫入された中筒であり、金属製たとえばアルミニウムに所望色彩の蒸着皮膜を施してなる。3 は前記中筒 2 に摺動可能に内嵌される長筒状の中皿、4 は前記袴体 1 の下部に内嵌固定される有孔底蓋 4、5 は前記袴体 1 に着脱可能にはめられるキャップ、6 は有孔底蓋 4 の底面に貼着された底シール片である。

【0007】前記袴体 1 と有孔底蓋 4 およびキャップは合成樹脂ごとに好ましくはロックウェル硬さが R90～110 の合成樹脂で構成されている。ロックウェル硬さ R110 を超える硬さでは弾性変形しにくく、緊密な面接触による気密シール図ることが出来ないため不可である。しかし、ロックウェル硬さ R90 未満では寸法、形状の精度が出にくくなるとともに、軟か過ぎて組立てや嵌合がしにくくなるため好ましくない。代表的な樹脂としてはポリエステル、ポリエチレンが挙げられる。袴体 1 は全体として筒状をなし、上部近くには段部 10 を介して主部よりも外径の小さい円筒部 11 が形成されており、内径側下端領域には、図 4 のように下端から所要の位置まで誘導面 19 が形成され、この誘導面 19 の終端には、鋸歯に曲率を付与した断面形状の係止用突条 16 が環状に形成されている。さらにこの係止用突条 16 の上方すなわち袴体の奥側には、前記誘導面 19 よりもわずかに径が小さい直線状のシール用面 17 とこれと直交するように内径側に張り出す張出しシール用面（段部）18 が形成されている。

【0008】前記張出しシール用面 18 の先端から上方は円筒部 11 の先端に到るまで同径の穴となっており、段部 10 よりも所要下方の部位から前記張出しシール用面 18 の上方に到る間の穴の内周面 101 にはめねじ溝 100 が形成されている。そして、前記円筒部 11 の外周面は、図 3 に示すように上端から所定位置まで誘導用

勾配面 12 が形成され、この誘導用勾配面 12 の終端位置にはなだらかな曲率で山状となったリング状突条 13 が形成され、さらにこのリング状突条 13 の下端側の麓から下方には緩勾配のシール用面 14 が形成されており、このシール用面 14 の終端から段部 10 に達するまでの領域には急勾配面を介してシール用面 14 よりも径の大きなガイド面 15 が形成されている。

【0009】中筒 2 は、前記袴体 1 の内周面 101 に当接可能な外径と、袴体 1 よりも長い寸法を有し、下端近くには図 4 に示すように内方に突出する環状係止部 21 が形成されており、この環状係止部 21 と適度の距離を隔てた部位から中間部位までの領域にはガイド用縦溝 20 が形成されている。中皿 3 は全体としてストレート状の筒体からなり、上端から所要位置の内面に化粧料 A を保持するための嵌合部 30 が形成されている。そして、下端から所要位置まで 180 度対称に一对の可縮用スリット 31、31 が形成され、かつこの可縮用スリット 31、31 から円周方向で 90 度変位した下端部位には半径方向に突出する突起 32 が形成されている。この突起 32 は本実施例では 1 つであるが、場合によっては 180 度対称位置にもう一つあってもよく、この場合には前記ガイド用縦溝 20 を対称位置に 2 つ設ければよい。

【0010】有孔底蓋 4 は、図 4 のように中皿 3 の内径と整合する径の貫通穴 400 を有し、先端付近の外周に中筒 2 の内周面に密接可能な嵌合部 43 が設けられると共に、これより下方部位の外周には前記中筒 2 の環状係止部 21 と嵌合する係合溝 40 が設けられている。そして、前記係合溝 40 よりも下方には、環状の凹溝 42 を挟んで上下に環状突条 41、44 が形成されている。上位の環状突条 41 は、押込み時に生ずる袴体 1 およびそれ自体の弾性変形により係止用突条 16 を乗り越えることができしかも袴体 1 のシール用面 17 に密接する径の外面 410 と、押込み時に張出しシール用面 18 に着座密接する上面 411 とを有している。下位の突条 44 はシール用面 17 と同径面 440 を有し、該同径面 440 は前記誘導面 19 がシール用面 17 よりも径の大きいことから、誘導面 19 と微小な隙間をもって遊嵌する。

【0011】キャップ 5 は外面がストレート状に構成され、内面には図 3 のように先端から所要位置までの領域に径の大きなガイド面 15 と遊嵌する勾配面 50 を有している。さらに、この勾配面 50 の終端位置には、前記リング状突条 13 を乗り越えたのち緩勾配のシール用面 14 に密接されるように山状となった環状隆起突条 52 が形成されるとともに、該環状隆起突条 52 の上側麓から連続して前記リング状突条 13 と遊合可能な形状および深さのリング状凹入部 51 が形成されている。

【0012】底シール片 6 は、耐水性の良好なラミネート紙や合成樹脂フィルムからなり、接着剤によって有孔底蓋 4 に貼着されることで貫通穴 400 を気密に封止している。その他図面において、7 は化粧料の充填時に中

筒2の上端に嵌着されるカプセルである。

【0013】本発明は上記のような構成からなるので、中皿3を中筒2に押し込めば可縮用スリット31、31により中皿3は縮径され、中筒2に嵌装された瞬間復元突起32がガイド用縦溝20から突出する。これで中皿3と中筒2はアッセンブリされる。容器の組立てにあたって、前記アッセンブリを袴体1の下部から貫挿しつつ回転すれば、突起32が袴体1のめねじ溝100に螺合する。この状態で袴体1の下方から有孔底蓋4を押し込めば、嵌合部43が中筒2の環状係止部21を弾性変形させてこれを通過し、この瞬間、係合溝40に環状係止部21がパチンと嵌合する。これにより有孔底蓋4と中筒2が直列状に連結される。そして、このとき下方では上位の突条41の外面410が袴体1の係止用突条16の緩やかな斜面を摺接してゆき、頂上を過ぎた瞬間元の径に復元するため外面410がシール用面17に気密に密接するとともに、上面411が張出しシール用面18に密接する。係止用突条16は鋸歯状となっているため突条41はもはや下方に移動することが出来ない。したがって、有孔底蓋4と袴体1は、ロックウェル硬さで100～105の軟質な上面411と張出しシール用面18、外面410とシール用面17の緊密な面接触により完全に気密シール状態となる。

【0014】以上で組立てが終わり、化粧料Aを充填するには中筒2の上端にカプセル7を嵌着し、有孔底蓋4の貫通穴400からノズルを挿入して圧入すればよく、化粧料が固化した後、適宜不活性ガスなどを注入しつつ有孔底蓋4に底シール片6を貼着すれば化粧料Aは気密状態で封入される。そしてキャップ5を袴体1に挿合せば、図5(a)のように勾配面50がガイド面15と遊合するのに続いて環状隆起突条52がリング状突条13に摺接して外径方向に弾性変形し、環状隆起突条52がリング状突条13の頂部を過ぎた瞬間復元するため、(b)のように環状隆起突条52は緩勾配のシール用面14にきつく面接触するとともに環状隆起突条52に続くリング状凹入部51がリング状突条13と遊合を開始する。したがって環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14の密接は持続し、図3のように、キャップ5の先端が段部10に当接すると、リング状凹入部51はリング状突条13と遊合し、ロックウェル硬さで100～105の軟質な環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14だけが完全に面接触する。このためキャップ5と袴体1も完全に気密シールされる。以上のようなことから、化粧料Aの揮発成分が蒸発せず、使用時まで良好な品質、正常に保たれる。

【0015】化粧料Aの使用時にはキャップ5を取り、袴体1を回転すればよく、これにより中皿3の突起32が袴体1のめねじ溝100に沿って上昇するため化粧料

Aは繰り出される。使用が終わってキャップ5を袴体1に挿着すれば前記のように環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14が面接触して再び気密シールする。このため化粧料Aの揮発成分が蒸発せず、乾燥による割れなどが生じない。

#### 【0016】

【発明の効果】以上説明した本発明の請求項1によるときは、弾性シール材を使用しないで必要最少限の部品にて完全な気密シールを図ることができ、弾性シール材を使用しないためコストも安く、組立ても簡単であるなどのすぐれた効果が得られる。請求項2によればキャップ5と袴体1が適切な軟質硬度合いであるためより良好なシールを図ることが出来るというすぐれた効果が得られる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による棒状化粧品繰出し容器の一実施例を示す部分切欠側面図である。

【図2】同じくその部分切欠分解斜視図である。

【図3】図1の部分拡大図である。

【図4】同じく部分拡大図である。

【図5】キャップと袴体の挿し合せ時の状態を段階的に示す拡大断面図である。

#### 【符号の説明】

- |    |          |
|----|----------|
| 1  | 袴体       |
| 2  | 中筒       |
| 3  | 中皿       |
| 4  | 有孔底蓋     |
| 5  | キャップ     |
| 6  | 底シール片    |
| 10 | 段部       |
| 11 | 円筒部      |
| 12 | 誘導用勾配面   |
| 13 | リング状突条   |
| 14 | シール用面    |
| 16 | 係止用突条    |
| 17 | シール用面    |
| 18 | 張出しシール用面 |
| 20 | ガイド用縦溝   |
| 21 | 環状係止部    |
| 30 | 嵌合部      |
| 31 | 可縮用スリット  |
| 32 | 突起       |
| 40 | 係合溝      |
| 41 | 突条       |
| 42 | 凹溝       |
| 50 | 勾配面      |
| 51 | リング状凹入面  |
| 52 | 環状隆起突条   |

【図5】

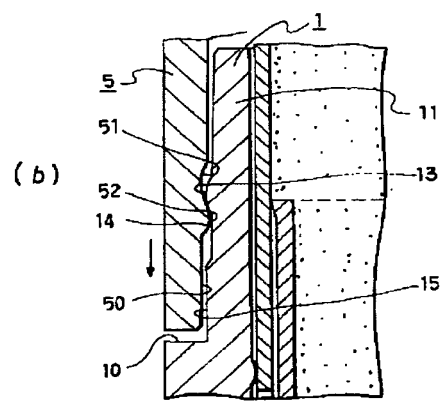
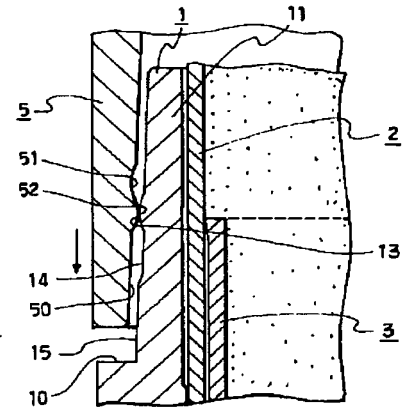
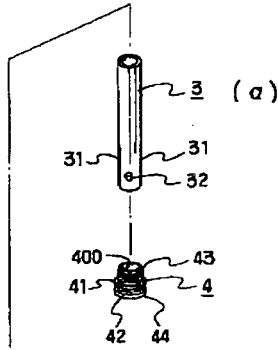
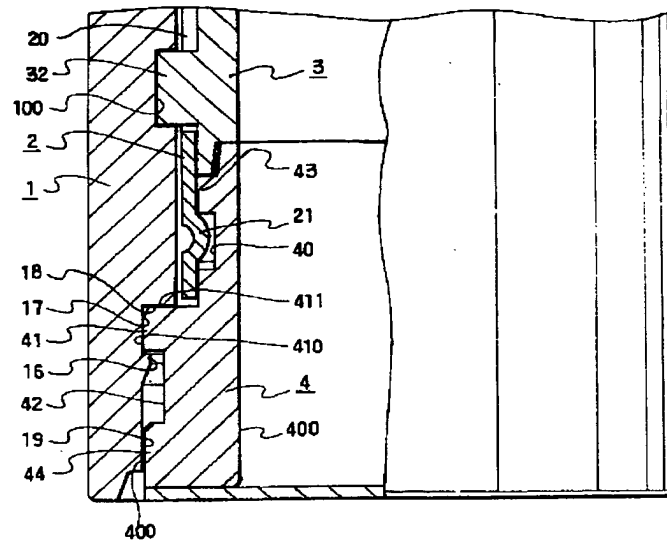


Fig. 1 is a cross-sectional view of a multi-layered structure. It shows a central core (1) with a textured pattern, surrounded by a hatched layer (2). A vertical line (10) separates the core from a large, textured region (A). Other labels include 12, 11, 13, 51, 52, 14, 50, 15, 101, and 20.

(6)

特開平8-242940

【図4】



【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 11 年（1999）4 月 20 日

【公開番号】特開平 8-242940

【公開日】平成 8 年（1996）9 月 24 日

【年通号数】公開特許公報 8-2430

【出願番号】特願平 7-74548

【国際特許分類第 6 版】

A45D 40/00

【F I】

A45D 40/00 U

【手続補正書】

【提出日】平成 9 年 11 月 14 日

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】棒状化粧品繰出し容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】上部域に段部 10 を介して円筒部 11 を設け、内周にはめねじ溝 100 を形成した棒体 1 と、前記棒体 1 に貫入する外径と棒体 1 よりも大きな長さ寸法を有し、下端部近く内方に突出する環状係止部 21 を形成し、該環状係止部 21 よりも上方にガイド用縦溝 20 を形成した金属製の中筒 2 と、前記中筒 2 に摺動可能に内嵌され、上半部に棒状化粧品 A に対する嵌合部 30 を有し、下端から所要位置まで 180 度対称位置に可縮用スリット 31、31 を形成しかつ下端部外周に前記中筒 2 のガイド用縦溝 20 から突出して前記めねじ溝 100 に進入可能な突起 32 を設けた中皿 3 と、前記棒体 1 の下端部に嵌着され、上側部には前記環状係止部 21 と嵌合する係合溝 40 を有する有孔底蓋 4 と、前記棒体 1 の円筒部 11 に挿脱可能に嵌まるキャップ 5 とを備え、棒体 1 の円筒部 11 の外面には先端から所定位置まで誘導用勾配面 12 が形成されると共に、所定位置にはなだらかな曲率のリング状突条 13 が形成され、さらにこのリング状突条 13 の麓から緩勾配のシール用面 14 が形成されており、キャップ 5 の内面は先端から所要位置まで円筒部 11 の付け根領域に遊嵌する勾配面 50 を有し、この勾配面 50 の終端位置には、前記リング状突条 13 を乗り越えたのち前記シール用面 14 に密接される山状の環状隆起突条 52 と該環状隆起突条 52 に連続して前記リング状突条 13 に遊合されるリング状凹入面 51 とが形成されて

おり、

前記棒体 1 の下端から所定位置の内周面には係止用突条 16 を設けると共に、この突条 16 よりも奥には棒体 1 の下端から係止用突条 16 までの径よりも小さな径のシール用面 17 とこれと直交する張出しシール面 18 を設け、

有孔底蓋 4 には係合溝 40 よりも下方に前記係止用突条 16 を乗り越えたのち前記シール用面 17 と張出しシール面 18 に密接可能な上面 411 と外面 410 を備えた環状突条 41 と、該環状突条 41 に続く凹溝 42 を設けたことを特徴とする棒状化粧品繰出し容器。

【請求項 2】少なくとも前記棒体 1 とキャップ 5 がロックウェル硬度 R90～R110 の合成樹脂からなっている請求項 1 に記載の棒状化粧品繰出し容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は口紅で代表される棒状化粧品の繰出し容器に関する。

【0002】

【従来の技術】口紅やアイシャドウなどの棒状固形化粧品は揮発成分を含有したものが多く、従来のこの種の容器は気密性が乏しいため揮発成分が消失して乾燥したり、収縮してひび割れを起し、適切な使用を行えないという問題があった。この対策として実開平 1-118713 号公報などにおいては、棒体の上縁部位にキャップの下端縁内側と接するゴムなどからなるリング状弾性部材を取付けることが提案されている。しかしこの先行技術はリング状弾性部材という特別な部品を使用しこれを容器組立て時に嵌着しなければならないためコストが高くなり、また使用時にゴミなどが付着するとそれがリング状弾性部材に喰込み、リング状弾性部材を損傷したり、気密性が極度に低下しやすいという問題があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は前記のような問題点を解消するために発明されたもので、その目的とするところは、部品数増加なしの簡単な構造により適切



な気密性を実現できる棒状化粧品繰出し容器を提供することにある。

#### 【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明は、上部域に段部を介して円筒部を設け、内周にはめねじ溝を形成した袴体と、前記袴体に貫入れる外径と袴体よりも大きな長さ寸法を有し、下端部近く内方に突出する環状係止部を形成し、該環状係止部よりも上方にガイド用縦溝を形成した金属製の中筒と、前記中筒に摺動可能に内嵌され、上半部に棒状化粧品料に対する嵌合部を有し、下端から所要位置まで180度対称位置に可縮用スリットを形成しかつ下端部外周に前記中筒のガイド用縦溝から突出して前記めねじ溝に進入可能な突起を設けた中皿と、前記袴体1の下端部に嵌着され、上側部には前記環状係止部と嵌合する係合溝を有する有孔底蓋と、前記袴体の円筒部に挿脱可能に嵌まるキャップとを備えており、この構造において次の構成を採用したものである。袴体の円筒部の外面には先端から所定位置まで誘導用勾配面が形成されると共に、所定位置にはなだらかな曲率のリング状突条が形成され、さらにこのリング状突条の麓から緩勾配のシール用面が形成されており、キャップの内面は先端から所要位置まで円筒部の付け根領域に遊嵌する勾配面を有し、この勾配面の終端位置には、前記リング状突条を乗り越えたのち前記シール用面に密接される山状の環状隆起突条と、該環状隆起突条に連続して前記リング状突条に遊合されるリング状凹入面とが形成されており、前記袴体の下端から所定位置の内周面には、係止用突条を設けると共に、この係止用突条よりも奥には袴体の下端から係止用突条までの径よりも小さな径のシール用面とこれと直交する張出しシール面を設け、有孔底蓋には係合溝よりも下方に前記係止用突条を乗り越えたのち前記シール用面と張出しシール面に密接可能な上面と外面を備えた環状突条と、該環状突条に続く凹溝を設けている。好ましくは、少なくとも前記袴体1とキャップ5、さらにはこれらと有孔底蓋4はロックウェル硬度R90～110の軟質合成樹脂からなっている。

#### 【0005】

【作用】本発明においては、有孔底蓋4と袴体1は、ロックウェル硬さでR90～110の軟質な上面411と張出しシール用面18、外面410とシール用面17の緊密な面接触により完全に気密シール状態となる。また、キャップ5を袴体1に取付ければ、リング状凹入部51はリング状突条13と遊合し、ロックウェル硬さでR90～110の軟質な環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14だけが完全に面接触する。このためキャップ5と袴体1も完全に気密シールされる。したがって、これらにより弾性シール材を何ら使用しなくても化粧品料の揮発分の蒸発を確実に防止することができ、長期に渡って良好な品質を維持することが出来る。

#### 【0006】

【実施例】以下本発明の実施例を添付図面に基いて説明する。図1と図2は本発明による棒状化粧品繰出し容器の一実施例を示しており、図3ないし図5はその一部を拡大して示している。1袴体、2は袴体1に貫入された中筒であり、金属製たとえばアルミニウムに所望色彩の蒸着皮膜を施してなる。3は前記中筒2に摺動可能に内嵌される長筒状の中皿、4は前記袴体1の下部に内嵌固定される有孔底蓋5は前記袴体1に着脱可能にはめられるキャップ、6は有孔底蓋4の底面に貼着された底シール片である。

【0007】前記袴体1と有孔底蓋4およびキャップは合成樹脂ことに好ましくはロックウェル硬さがR90～110の合成樹脂で構成されている。ロックウェル硬さR110を超える硬さでは弾性変形しにくく、緊密な面接触による気密シール図ることが出来ないため不可である。しかし、ロックウェル硬さR90未満では寸法、形状の精度が出にくくなるとともに、軟か過ぎて組立てや嵌合がしにくくなるため好ましくない。代表的な樹脂としてはポリエステル、ポリエチレンが挙げられる。袴体1は全体として筒状をなし、上部近くには段部10を介して主部よりも外径の小さい円筒部11が形成されており、内径側下端領域には、図4のように下端から所要の位置まで誘導面19が形成され、この誘導面19の終端には、鋸歯に曲率を付与した断面形状の係止用突条16が環状に形成されている。さらにこの係止用突条16の上方すなわち袴体の奥側には、前記誘導面19よりもわずかに径が小さい直線状のシール用面17とこれと直交するように内径側に張り出す張出しシール用面（段部）18が形成されている。

【0008】前記張出しシール用面18の先端から上方は円筒部11の先端に到るまで同径の穴となっており、段部10よりも所要下方の部位から前記張出しシール用面18の上方に到る間の穴の内周面101にはめねじ溝100が形成されている。そして、前記円筒部11の外周面は、図3に示すように上端から所定位置まで誘導用勾配面12が形成され、この誘導用勾配面12の終端位置にはなだらかな曲率で山状となったリング状突条13が形成され、さらにこのリング状突条13の下端側の麓から下方には緩勾配のシール用面14が形成されており、このシール用面14の終端から段部10に達するまでの領域には急勾配面を介してシール用面14よりも径の大きなガイド面15が形成されている。

【0009】中筒2は、前記袴体1の内周面101に当接可能な外径と、袴体1よりも長い寸法を有し、下端近くには図4に示すように内方に突出する環状係止部21が形成されており、この環状係止部21と適度の距離を隔てた部位から中間部位までの領域にはガイド用縦溝20が形成されている。中皿3は全体としてストレート状の筒体からなり、上端から所要位置の内面に化粧品料Aを

保持するための嵌合部30が形成されている。そして、下端から所要位置まで180度対称に一對の可縮用スリット31、31が形成され、かつこの可縮用スリット31、31から円周方向で90度変位した下端部位には半径方向に突出する突起32が形成されている。この突起32は本実施例では1つであるが、場合によっては180度対称位置にもう一つあってもよく、この場合には前記ガイド用縦溝20を対称位置に2つ設ければよい。

【0010】有孔底蓋4は、図4のように中皿3の内径と整合する径の貫通穴400を有し、先端付近の外周に中筒2の内周面に密接可能な嵌合部43が設けられると共に、これより下方部位の外周には前記中筒2の環状係止部21と嵌合する係合溝40が設けられている。そして、前記係合溝40よりも下方には、環状の凹溝42を挟んで上下に環状突条41、44が形成されている。上位の環状突条41は、押込み時に生ずる袴体1およびそれ自体の弾性変形により係止用突条16を乗り越えることができしかも袴体1のシール用面17に密接する径の外面410と、押込み時に張出しシール用面18に着座密接する上面411とを有している。下位の突条44はシール用面17と同径面440を有し、該同径面440は前記誘導面19がシール用面17よりも径が大きいことから、誘導面19と微小な隙間をもって遊嵌する。

【0011】キャップ5は外面がストレート状に構成され、内面には図3のように先端から所要位置までの領域に径の大きなガイド面15と遊嵌する勾配面50を有している。さらに、この勾配面50の終端位置には、前記リング状突条13を乗り越えたのち緩勾配のシール用面14に密接されるように山状となった環状隆起突条52が形成されるとともに、該環状隆起突条52の上側縁から連続して前記リング状突条13と遊合可能な形状および深さのリング状凹入部51が形成されている。

【0012】底シール片6は、耐水性の良好なラミネート紙や合成樹脂フィルムからなり、接着剤によって有孔底蓋4に貼着されることで貫通穴400を気密に封止している。その他図面において、7は化粧料の充填時に中筒2の上端に嵌着されるカプセルである。

【0013】本発明は上記のような構成からなるので、中皿3を中筒2に押し込めば可縮用スリット31、31により中皿3は縮径され、中筒2に嵌装された瞬間復元し突起32がガイド用縦溝20から突出する。これで中皿3と中筒2はアッセンブリされる。容器の組立てにあたって、前記アッセンブリを袴体1の下部から貫挿しつつ回転すれば、突起32が袴体1のめねじ溝100に螺合する。この状態で袴体1の下方から有孔底蓋4を押し込めば、嵌合部43が中筒2の環状係止部21を弾性変形させてこれを通過し、この瞬間、係合溝40に環状係止部21がパチンと嵌合する。これにより有孔底蓋4と中筒2が直列状に連結される。そして、このとき下方では上位の突条41の外周面410が袴体1の係止用突条1

6の緩やかな斜面を摺接してゆき、頂上を過ぎた瞬間元の径に復元するため外面410がシール用面17に気密に密接するとともに、上面411が張出しシール用面18に密接する。係止用突条16は鋸歯状となっているため突条41はもはや下方に移動することが出来ない。したがって、有孔底蓋4と袴体1は、ロックウェル硬さでR90~110の軟質な上面411と張出しシール用面18、外面410とシール用面17の緊密な面接触により完全に気密シール状態となる。

【0014】以上で組立てが終わり、化粧料Aを充填するには中筒2の上端にカプセル7を嵌着し、有孔底蓋4の貫通穴400からノズルを挿入して圧入すればよく、化粧料が固化した後、適宜不活性ガスなどを注入しつつ有孔底蓋4に底シール片6を貼着すれば化粧料Aは気密状態で封入される。そしてキャップ5を袴体1に挿合せば、図5(a)のように勾配面50がガイド面15と遊合するのに続いて環状隆起突条52がリング状突条13に摺接して外径方向に弾性変形し、環状隆起突条52がリング状突条13の頂上を過ぎた瞬間復元するため、(b)のように環状隆起突条52は緩勾配のシール用面14にきつく面接触するとともに環状隆起突条52に続くリング状凹入部51がリング状突条13と遊合を開始する。したがって環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14の密接は持続し、図3のように、キャップ5の先端が段部10に当接すると、リング状凹入部51はリング状突条13と遊合し、ロックウェル硬さでR90~110の軟質な環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14だけが完全に面接触する。このためキャップ5と袴体1も完全に気密シールされる。以上のようなことから、化粧料Aの揮発成分が蒸発せず、使用時まで良好な品質、正常に保たれる。

【0015】化粧料Aの使用時にはキャップ5を取り、袴体1を回転すればよく、これにより中皿3の突起32が袴体1のめねじ溝100に沿って上昇するため化粧料Aは繰り出される。使用が終わってキャップ5を袴体1に挿着すれば前記のように環状隆起突条52と緩勾配のシール用面14が面接触して再び気密シールする。このため化粧料Aの揮発成分が蒸発せず、乾燥による割れなどが生じない。

#### 【0016】

【発明の効果】以上説明した本発明の請求項1によるときは、弾性シール材を使用しないで必要最少限の部品にて完全な気密シールを図ることができ、弾性シール材を使用しないためコストも安く、組立ても簡単であるなどのすぐれた効果が得られる。請求項2によればキャップ5と袴体1が適切な軟硬度合いであるためより良好なシールを図ることが出来るというすぐれた効果が得られる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による棒状化粧品繰出し容器の一実施例

を示す部分切欠側面図である。

【図 2】同じくその部分切欠分解斜視図である。

【図 3】図 1 の部分拡大図である。

【図 4】同じく部分拡大図である。

【図 5】キャップと袴体の挿し合せ時の状態を段階的に示す拡大断面図である。

【符号の説明】

- 1 袴体
- 2 中筒
- 3 中皿
- 4 有孔底蓋
- 5 キャップ
- 6 底シール片
- 10 段部
- 11 円筒部
- 12 誘導用勾配面
- 13 リング状突条
- 14 シール用面
- 16 係止用突条

- \* 17 シール用面
- 18 張出しシール用面
- 20 ガイド用縦溝
- 21 環状係止部
- 30 嵌合部
- 31 可縮用スリット
- 32 突起
- 40 係合溝
- 41 突条
- 42 凹溝
- 50 勾配面
- 51 リング状凹入面
- 52 環状隆起突条

【手続補正 2】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正内容】

【図 4】

